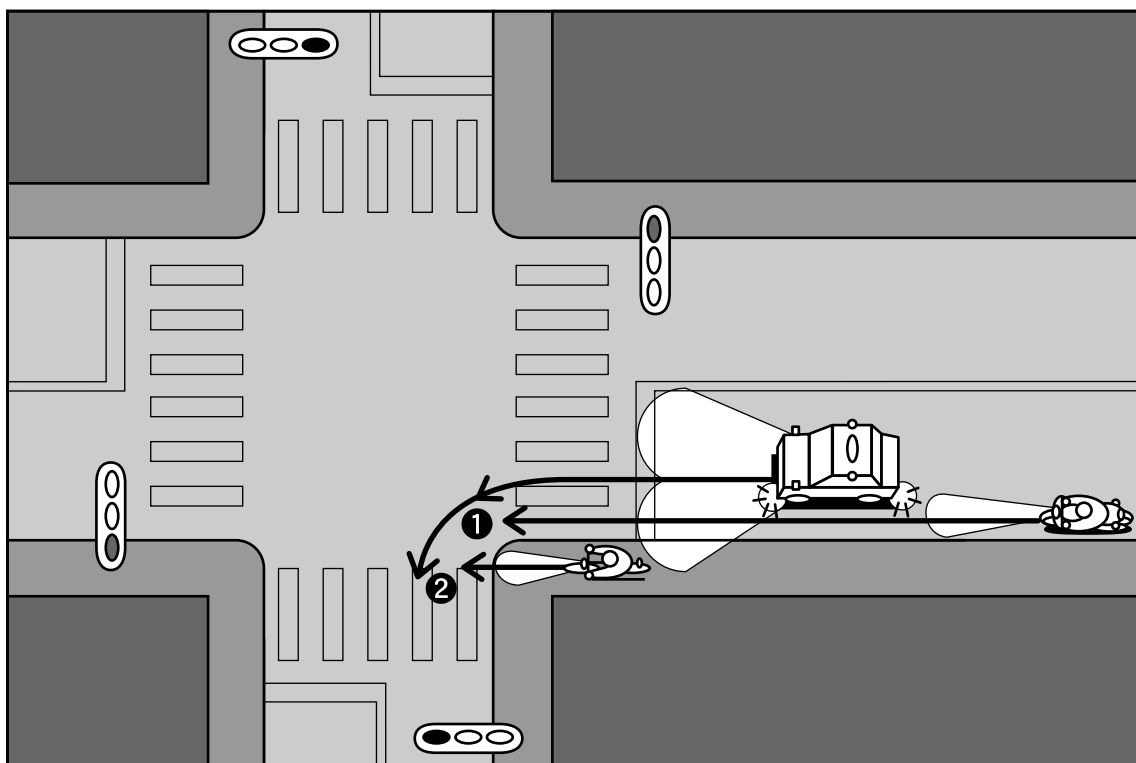


危険予知トレーニングシート 解説

【タクシー】

- 夜間の交差点を左折
- 直線の単路を走行
- 住宅街の走行
- 右折して営業所へ
- 雨天時の走行

〔タクシー1〕 夜間の交差点を左折



1. 主な危険要因の例

- ① 左のミラーに二輪車が映っており、このまま左折すると二輪車と接触する危険がある。
- ② 前方の自転車が横断歩道を進行すると考えられるので、左折するときに衝突する危険がある。

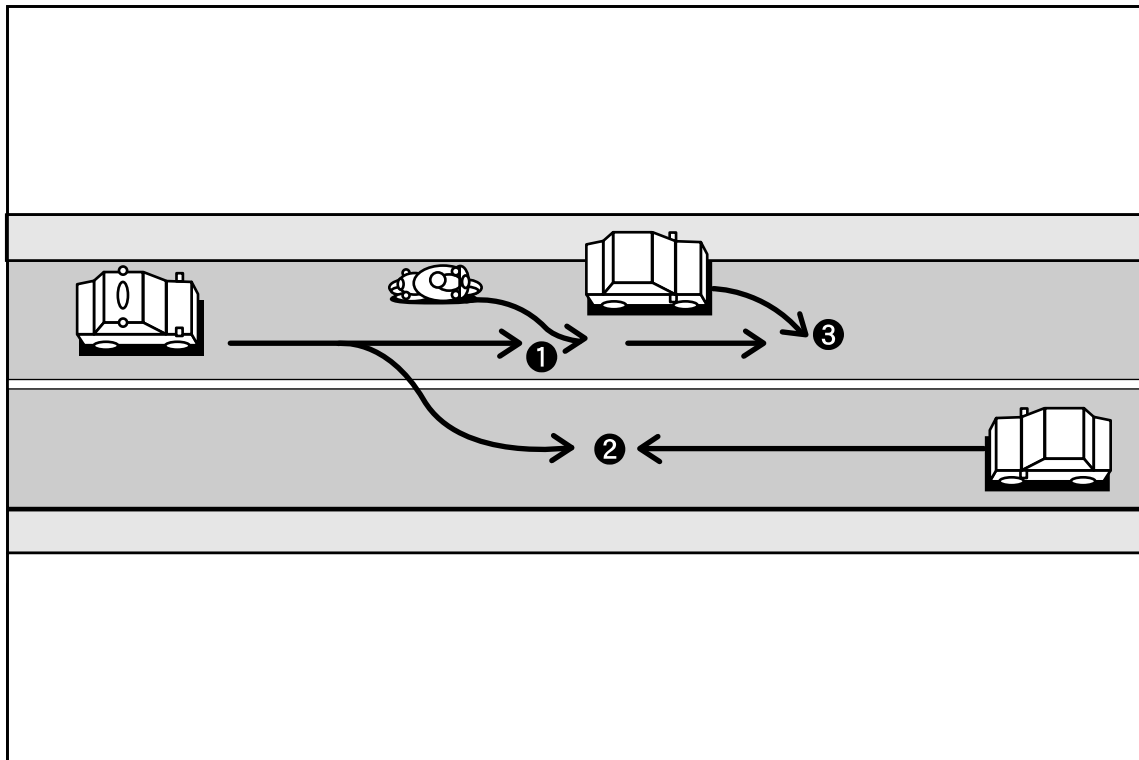
2. 安全運転の例

- ① 交差点に接近したときはスピードを落とす。
- ② 左折の合図を早めに出すとともに、左側に寄る前に必ず左後方から二輪車が接近していないかどうかを確認し、二輪車が接近しているときは先に行かせる。
- ③ 横断歩道を進行する自転車や歩行者の有無を確認し、いつでも停止できる速度に減速して進行する。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 交差点左折時の安全走行について、特に次の点を指導する。
 - ・ 交差点に接近したときはスピードを落とす。
 - ・ 早めに左折の合図を出す。
 - ・ 左側方および左後方の状況(二輪車等の有無)を確認する。
 - ・ 前車や横断歩道の歩行者や自転車、対向右折車等の動向に注意する。
- ② 夜間は自転車や歩行者を見落としやすいので、特に慎重に自転車や歩行者の確認を行うとともに、歩行者や自転車が横断しているときは、必ず一時停止して通過を待つ。

〔タクシー２〕 直線の単路を走行



1. 主な危険要因の例

- ① 前方の駐車車両を避けようとして右側に進路変更してきた二輪車と接触する危険がある。
- ② 二輪車を避けようとしてセンターラインをはみ出すと、対向車と衝突する危険がある。
- ③ 前方の駐車車両が発進すると、接触する危険がある。。

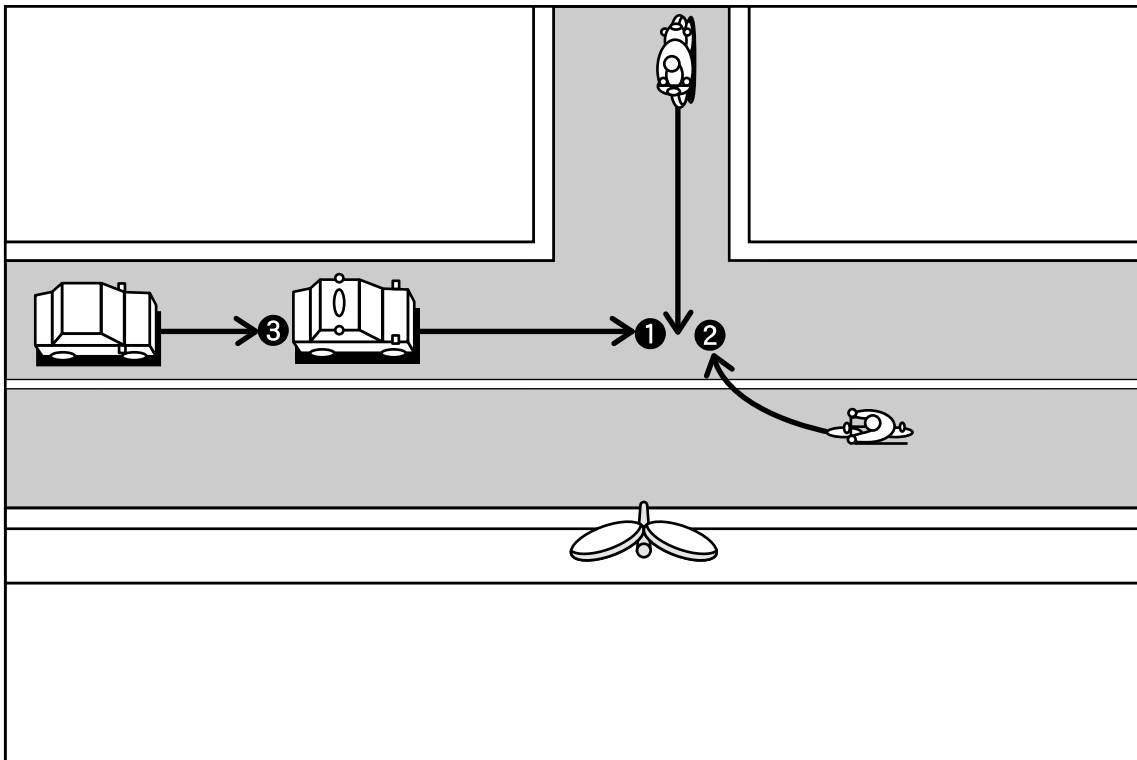
2. 安全運転の例

- ① 前方の二輪車が駐車車両のために右側に進路変更してくることが予測されるので、二輪車を追い越そうとしたり追い抜いたりせず、スピードを落として、二輪車が進路変更するのを待つ。
- ② 駐車車両の動きにも十分注意しながら、二輪車の後方を車間距離をとって走行する。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 道路の左側を走行することの多い二輪車は、駐車車両などの障害物のために、急に右側に進路変更してくることがあるので、二輪車の動向に注意するとともに、二輪車との車間距離を保持して走行するよう指導する。
- ② 駐車車両があるときは、乗員の有無を確認するとともに、乗員がいるときは、急に発進したりドアが開くおそれもあるので、駐車車両にも目を配るよう指導する。

〔タクシー3〕住宅街の走行



1. 主な危険要因の例

- ① 前方左側に脇道があり、道路ミラーに二輪車らしき映像が映っているので、このまま進行すると、脇道から出てきた二輪車と衝突する危険がある。
- ② 道路の中央付近を走行している対向の自転車が、脇道に入るために右折してくると衝突する危険がある。
- ③ 急停止すると、後続車に追突される危険がある。

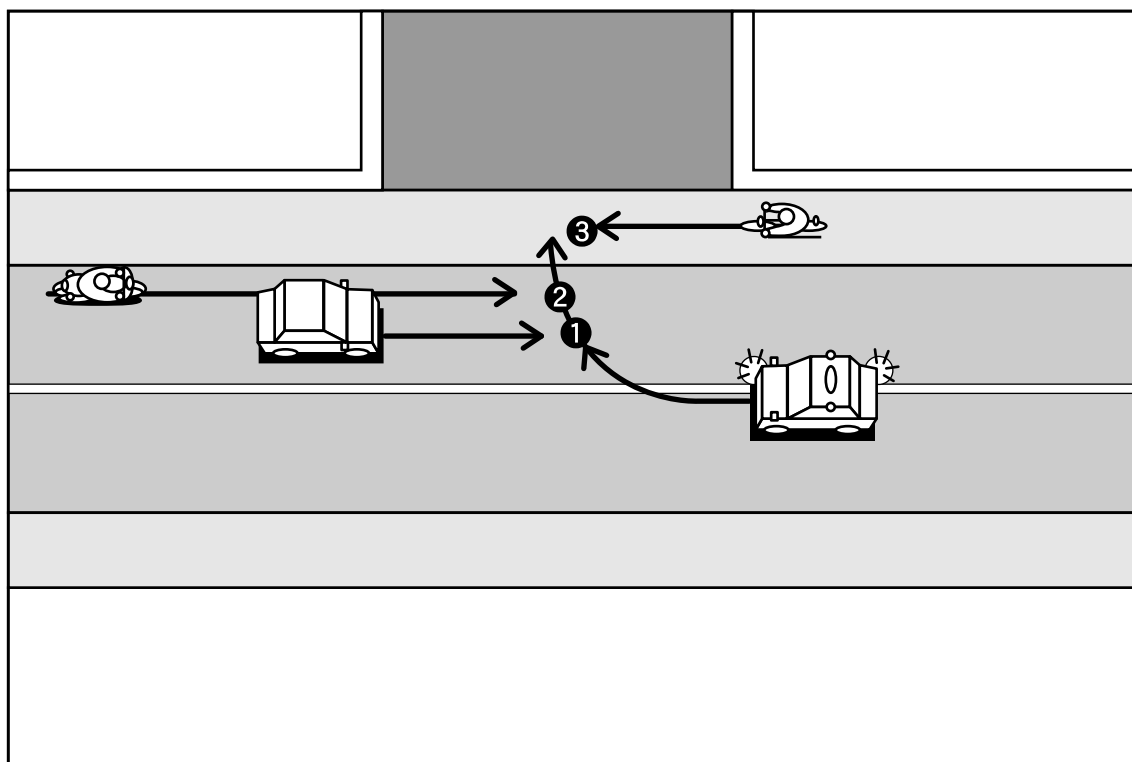
2. 安全運転の例

- ① 住宅街では、あらかじめスピードを落として走行する。
- ② 道路ミラーの設置されている場所では道路ミラーをチェックし、接近してくる車両があるときは、飛び出してくるかも知れないと考えて、いつでも停止できる速度に徐行して進行する。
- ③ 住宅街では、自転車が急に車の前を横切ることもよくあるので、自転車の動きにも十分注意する。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 住宅街での主役は車ではなく、歩行者や自転車であることを認識させ、あらかじめスピードを落とすよう指導する。
- ② 見通しが悪く道路ミラーの設置されている場所は、他の場所に比べて飛び出しの危険が多い場所だと考えて、道路ミラーをチェックし、接近してくる車両や歩行者を見落とさないようにするとともに、徐行（必要に応じて一時停止）するよう指導する。

〔タクシー４〕 右折して営業所へ



1. 主な危険要因の例

- ① 対向車が接近しているので、このまま右折すると、対向車（乗用車）と衝突する危険がある。
- ② 対向車（乗用車）の通過直後に右折をすると、その後方を走行している二輪車と衝突する危険がある。
- ③ 対向車より先に右折しようと、急加速して強引に右折をすると、歩道を進行している自転車と衝突する危険がある。

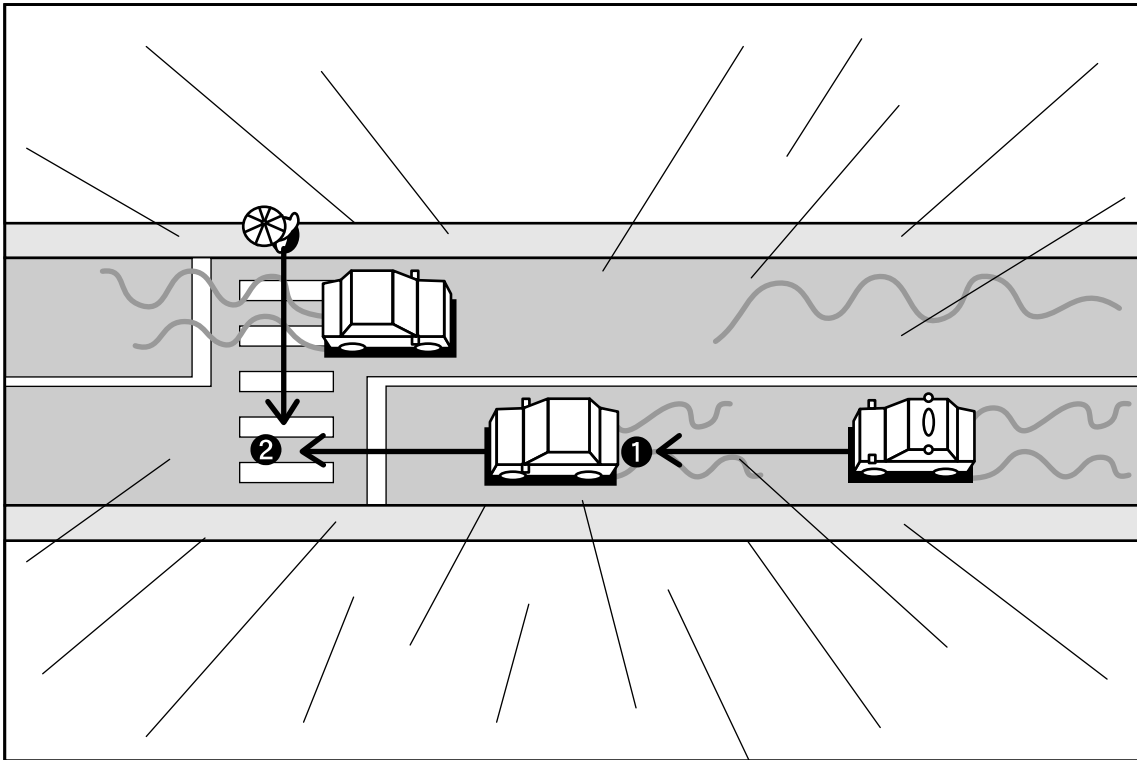
2. 安全運転の例

- ① 対向車が接近しているときは、右折をせずに、対向車の通過を待つ。
- ② 対向車の後方から二輪車が接近しているケースもよくあるので、対向車の通過直後に一気に右折をするのではなく、対向車の後方の状況を必ず確認する。
- ③ 歩道の状況にも目を配り、自転車や歩行者がいるときは、歩道の手前で一時停止して通過を待つ。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 右折時に対向車が接近しているときは、その通過を待つとともに、対向車の後方にも車がいるかもしれないと予測して、対向車の通過後に必ず後方の確認をしてから右折するよう指導をする。
- ② 対向車が大型車の場合は、その後方が死角になるため、対向車通過直後の右折は非常に危険であることを認識させる。
- ③ 歩道を横切るときは、歩道の状況を確認するとともに、歩道の手前で停止できる速度で進行するよう指導する。

〔タクシー5〕雨天時の走行



1. 主な危険要因の例

- ① 対向車の向こうに傘をさした歩行者の姿が見えるが、その歩行者が横断歩道を渡ってきたために、前車が急停止すると前車に追突する危険がある。
- ② 前車に追従して横断歩道を通しようとする時、前車の通過直後に横断してきた歩行者をはねる危険がある。

2. 安全運転の例

- ① 前方に信号機のない横断歩道があり、その付近に歩行者がいるときは、横断してくるかもしれないと予測するよう指導する。
- ② 横断歩道付近に歩行者がいるときは、スピードを落として接近するよう指導するとともに、前車に追従して走行しているときは、前車の急停止を予測して、十分な車間距離を保持するよう指導する。
- ③ 歩行者が横断歩道を渡ってきたときは、必ず手前で一時停止して、歩行者を先に行かせるよう指導する。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 横断歩道に接近したときは、明らかに歩行者等がない場合のほかは、その手前で停止できるような速度を落として進行する義務があることを認識させる。
- ② 歩行者等が横断歩道を渡ってきたときは、必ず一時停止して歩行者等を先に行かせるよう指導する。
- ③ 横断歩道のある場所では、自車線側だけでなく、対向車線側にも歩行者がいなかどうかを必ず確認するよう指導する。